

# 「オンライン技術系・英語研修」の運営を通じた企画力向上の実践

○北條 優子<sup>1)</sup>、伊藤 千佳子<sup>2)</sup>、中村 有里<sup>2)</sup>、石原 すみれ<sup>1)</sup>

<sup>a)</sup> 岡山大学 総合技術部 機器分析・動植物資源技術課、<sup>b)</sup> 岡山大学 総合技術部 教育支援技術課

## 1. はじめに

2024年9月12日(木)に、岡山大学にて「オンライン技術系・英語研修」を開催した。本研修は、2015年より大学連携研究設備ネットワーク主催で、大学の技術職員や技術支援員(パート、派遣含む)を対象に、毎年7回程度開催されている英語研修のうちの1回である。昨年に引き続き、岡山大学総合技術部の技術職員らが企画・運営を担当し、10人の技術職員らが参加した。本報告では開催までの創意工夫や研修内容、所感を報告する。

## 2. 実施までのスケジュール

開催までのスケジュールを表1に示した。大学連携研究設備ネットワークで多くの英語研修を運営している技術英語研修WGと連携を密にし、準備をすすめた。

表1 開催までのスケジュール

2024年7月	企画立案・研修内容検討
2024年8月	開催日・講師・研修内容決定・資料作成・ 事前(イベント)広報・受講生募集
2024年9月前半	事前課題用意・提出確認
2024年9月12日	開催
2024年9月後半	事後広報 <sup>[1]</sup>

## 3. 研修準備

### 3.1 研修概要

研修概要を表2に示した。また、研修スケジュールを図1に示した。研修内容はいずれもグループワークを含んだものとし、1) AIを用いたSpeakingの体験練習とグループごとの議論・2) 伝わる! プロトコルの書き方・3) 伝える! 研究室での注意事項について実施した。

自己紹介文や自己紹介ムービーの事前課題や1),2)については当日までに予習ができるよう関係資料のアップロードも行った。伝わること・伝えることを重視したプログラムの作成に努めた。

また、事前広報として大学連携研究設備ネットワーク website だけではなく、岡山大学トップページでもイベント広報として掲載した。

表2 研修概要

開催日時	2024/9/12(木)10:00~12:00、13:30~16:30
開催場所	オンライン
講師	内田クレア先生 (岡山大学言語教育センター非常勤講師)
受講者	10名

図1 研修スケジュール

事前準備	~9/6 (全)	【事前課題①】 9/6 (全) までにご提出ください ・自己紹介ムービーの作成 ・自己紹介文、自己紹介動画のアップロード				【事前課題②】 提出の必要はありません。当日までにご準備ください ・研修資料の確認 ・ワーク1 (AI) ・ワーク2 (プロトコル) ※ワーク3は事前課題はありません。				
		10:00	10:50	12:00	13:30	14:45	16:00	16:30		
当日	9/12 (木)	集合・受付 10:00~ 10:05	Ice Break (自己紹介) 10:05~10:25	講師・参加者紹介 10:25~10:50	ワーク1 AIを用いたSpeakingの体験練習と グループごとの議論 10:50~12:00	休憩 12:00~13:30	ワーク2 伝える！プロトコルの書き方 13:30~14:45 (休憩含む)	ワーク3 伝える！研究室での注意事項 14:45~16:00	本日の ふりかえり 16:00~16:25	閉会 16:25~ 16:30

### 3.2 事前課題

参加者限定の Slack を作成し、具体的な研修スケジュールや事前課題の自己紹介文や自己紹介ムービーを共有した。研修前に講師からフィードバックもあった。

また、1) AI を用いた Speaking の体験練習の事前課題アナウンスでは英語 200 字程度の話してみたい内容を事前に用意しておくことや実際の例として行った動画の共有を、2) 伝える！プロトコルの書き方では、英語のプロトコルを事前に用意して一部を日本語にしておき、翻訳しておくことを提案した。いずれも実践例やヒントを掲載しておくことで参加者が取り組みやすい環境を整えた。

さらに、事前の質問も参加者で共有できるように設定し、研修前に講師からのフィードバックもあった。

### 3.3 実施内容

当日は、3~4 人のグループを 3 つ作成し、Zoom 上のブレイクアウトルームで議論を行った。参加者は、事前に取り組んでおいた課題や自らの解釈をグループ内の人と話し合い、グループとして講師に発表することで全員がそれぞれの解答を共有することができた。どのグループが正しいのかではなく、どうやったらより伝わりやすい英語を用いることができるのかを深く学ぶことができた。昨年度も好評だった 3) 伝える！研究室での注意事項は、実験室内の写真を実際に見て即時の対応ができるようになっていた。

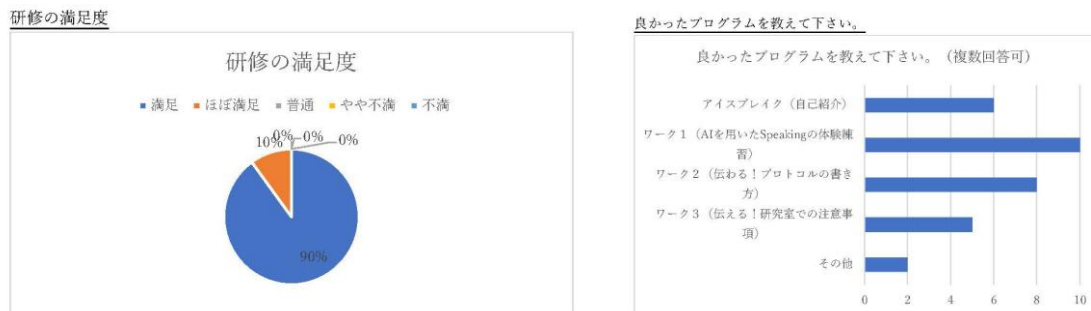
### 3.4 事後の共有

参加者は、研修後も使いやすい英語アプリの共有や実際の英語を用いた実験室での事例などを Slack で共有し、さらに学びを深めている。

## 4. 事後アンケート

事後アンケートの結果を図2に示した。参加者の満足度は非常に高かった。また、プログラムについても概ね好評であった。(参考：大学連携研究設備ネットワーク website<sup>[2]</sup>)

図2 事後アンケートの結果



## 5. 所感

技術系職員として、年々留学生との会話や共同実験が増えてくる中で、伝え方や伝えたい言葉の選び方を考えるようになってきた。文章においても同様に伝わりやすい書き方を考える必要があり、学びを共有することができてよかったと感じている。完成した文章が参加者同士で異なっているにもかかわらず、受け取り手に伝わるのが大切だということを学び、非常に有益な研修となった。

運営としても、バックグラウンドの異なる 4 人が企画を立ち上げ実施することで、お互いに助け合いながらつくりあげることができた。参加者の目線からだけでなく主催者の目線で物事を考える特別な機会になった。

### 参考 website

[1] 岡山大学トップページ [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13528.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13528.html)

[2] 大学連携研究設備ネットワーク 人材育成情報

<https://study.eqnet-portal.jp/ewp/wp-content/uploads/2024/08/技術系・英語研修実施報告 Sep26.pdf>

### 謝辞

本研修を開催するにあたり、大学連携研究設備ネットワークや岡山大学総合技術部、技術英語研修 WG の皆さまに大きなご支援をいただきました。御礼申し上げます。

昨年に引き続き講師をお引き受けいただき、ご尽力いただいた内田クレア先生にも心より御礼申し上げます。